

チーム・ティーチングによる実践の検討 ーアクティブ・ラーニング指導時の教師の変容についてー

教育実践高度化専攻
教育実践リーダーコース
鈴木 翔

I 問題の所在

中央教育審議会(2015)は、「教員は学校で育つ」という考えのもと、同僚の教員とともに支え合いながらOJTを通じて日常的に学び合う校内研修の充実のための方策を求めている¹⁾。大木(2013)は、OJTの中でTT(以下:チーム・ティーチング)を行った事例をあげ、授業の進め方や生徒への対応の仕方を学び、瞬間的にどう判断し対応すればよいかを先輩教員の姿から理解しているとOJT研修でのTTの効果を報告している²⁾。学校現場での授業改善に向けた教科の研修では、実際の授業を教員同士で見合いながら検討する授業研究が行われている。

水落・阿部(2016)は、授業研究を『学び合い』で実施した例を紹介し、教師同士が自由に参観に訪れられる環境(指導案のないインフォーマルな公開授業)での教師同士の参観は効果的だと示唆している³⁾。また、担任以外の教師が可視化を促したり、直接言ってみせたりすることも有効だと示している⁴⁾。

坂野(2008)は、話し合いや授業参観を利用した、『学び合い』授業に対するサポートでの教師の変容を報告している。一方で、校内研修にまで取り入れられる汎用性の高い取り組みであるかの検討の必要性を示唆している⁵⁾。

このように『学び合い』授業を参観という形でサポートし教師の変容や効果の報告はある。しかし、『学び合い』実践経験のない教師がTTの

形態で授業を行い、『学び合い』導入時の、指導に対する行動の変容を明らかにした研究は、管見の限り見当たらない。

II 研究の目的・方法

①研究の目的

本研究は、『学び合い』実践者とTT授業を行った際の、『学び合い』未経験の教師の変容を明らかにする。また、実践経験のない教師にとって有効な授業研究の方法になり得るか検討を行う。

②調査期間

2015年11月～2016年12月

③調査対象

新潟県内公立小学校6年担任:教師A
(教職経験12年目)
新潟県内公立小学校3年担任:教師B
(教職経験19年目)

④調査方法

『学び合い』授業をTTで行い、ビデオカメラを教室に2台設置し、教師・実践者の行動を記録する。教師・実践者にボイスレコーダをつけ、発話を記録する。

⑤活動手続き

『学び合い』授業は、各教師の担当学年の教室で、以下の流れで行った。なお、「全体での目標と課題・進度の確認」及び「全体での評価」はT1が担当する。また、「課題解決に向けた学習活動」はT1とT2でTTを組んで行

う。指導方法は事前にT1とT2で共通認識を持つ時間を確保し、同じような指導となるように配慮した。

- (1) 全体での目標確認 (5分)
- (2) 課題達成に向けた学習活動 (35分)
- (3) 全体での評価 (5分)

本研究において指導に対する行動とは、『学び合い』活動中における教師の発話、児童に対する机間指導やみ見取りの行動と定義する。

⑥分析方法

本研究では、分析1で『学び合い』未経験の教師A・教師B各々の指導行動の変化を明らかにする。分析2で、教師A・Bの教師の意識面に関する変化を明らかにする。そのため、以下の分析を行う。

分析1

- ・発話回数の変化や発話内容の変化
- ・教師が指導した時間の変化
- ・教師の指導行動(位置)の変化

分析2

- ・教師A・B各々の会話事例の分析

Ⅲ 結果

分析結果から以下のことが明らかになった。

分析1(教師の指導行動に関する分析)

○1時間ごとの活動時間では発話回数の増減は見られないこと、発話対象が前期では「個人への発話」の割合が多かったものの、後期では「全体への発話」の割合が増加傾向になることが明らかとなった。また、発話内容では授業を進めることで「活動を進める発話」の割合が減り、「活動を見守ろうとする発話」が増加する傾向が明らかとなった。

○指導した時間の割合が前期に比べ後期では減少傾向にあった。

○個を指導する「机間指導」から全体を見まわ

して指導する「その他の位置での指導」に変化していることが明らかとなった。

分析2(教師の意識面に関する分析)

○前期では、不安を多く抱えながらの授業であったが、後期の期間中には『学び合い』を自らの指導にも繋げようとする指導観の変化が明らかとなった。

Ⅳ 結論と考察

○発話対象、指導時間、指導行動において、他の『学び合い』導入時の先行研究の結果と同様の結果が得られた。

○意識の変容に関しても、他の『学び合い』導入時の先行研究の結果に類似する結果が得られた。

以上のことから、実践者とTTでの『学び合い』授業を実践した、『学び合い』未経験の教師は、他の『学び合い』導入時の研究結果と同様の傾向を示すことが明らかとなった。このことより、『学び合い』授業を導入する際に、実践者とTTで『学び合い』を経験することは、実践経験のない教師にとって有効な授業研究の方法であると示唆された。

【引用・参考文献】

- 1) 中央教育審議会：「これからの学校教育を担う教員の資質能力の向上について(教員養成部会中間まとめ)」, 2015.
- 2) 大木雄介：「若年層教員の自己成長を促すOJTの在り方ー中学校における組織文化に着目した事例分析を通してー」, 平成25年度福岡市教育センター研究紀要, 2013.
- 3) 水落芳明・阿部隆幸：「開かれた『学び合い』はこれで成功する！」, pp. 112-118, 学事出版, 2016.
- 4) 前掲書
- 5) 坂野智之・西川純：「教員同士の『学び合い』に関する研究」, 臨床教科教育学会誌, 臨床教科教育学会, 8(1), pp11-32, 2008.

指導 西川 純